

# 事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策1 県民の総力を結集できる行政の推進
---------	----------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	しまね暮らし推進課長 今岡 泰治	電話番号	0852-22-6179
----------	------------------	------	--------------

事務事業の名称	島根の未来実現事業（全県的な課題解決の取組推進）		
目的	(1) 対象	住民等	
	(2) 意図	地域の課題解決や活性化に資する取組を促進する	
事業概要	地域の活性化を推進するため、全県の共通課題、県域課題、個別課題の解決に向けた先鋭的・独創的な取り組みを総合的・一体的に支援		

## 2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	取組件数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		7.00	7.00	7.00	7.00	
式・定義	地域プロジェクト推進費の取組件数	実績値	6.00	5.00	6.00	6.00			
		達成率		71.40	85.70	85.80		%	
指標名	式・定義	取組件数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義		実績値	0.00	0.00	0.00				
		達成率		0.00	0.00			%	

## 3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	99,532	104,211
うち一般財源(千円)	99,132	104,211

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

○地域プロジェクト推進費の取組件数実績は6で目標値に達しなかったものの、各地域において様々な事業構想や先鋭的な事業の試行もあり、この取り組みが他地域に波及し、広域的な地域課題の解決に繋がっていくものと期待される。  
 ○過疎対策事業債のソフト事業分の活用により、市町村において地域団体や多様な主体と連携した地域課題の解決に向けての取り組みが進んでいる。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

・全県的な課題、広域的な課題、各市町村における課題など各課題の解決や活性化に資する取り組みを支援。  
 ・中山間・定住対策における優良モデル事業創出を目指し、先鋭的な取り組みを支援。また、一部の先鋭的な取り組みについては、事業実施によるノウハウを蓄積し他地域へ横展開。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

○地域の実情や課題、ニーズをよりの確に把握した上で施策をブラッシュアップさせていき、優良モデル事業等をこれまで以上に作り出していく必要がある。  
 ○ソフト事業を積極的に実施し成果をあげている市町村があることから、このような取組が他の市町村にも波及することが必要。

### ②困っている状況が発生している「原因」

○しまね暮らし推進課、隠岐支庁県民局、西部県民センターが支援し、積極的な取り組みを行っている等の特定の地域、各種団体がある一方、支援の関わりが薄い地域、各種団体については地域づくりに向けての取組も低調であり、そのため情報も少ない。  
 ○ソフト事業を実施する予算財源の不足。

### ③原因を解消するための「課題」

○より多くの地域、各種団体との関わりや情報を得ていくため、しまね暮らし推進課、隠岐支庁県民局、西部県民センターがより多くの地域に積極的に関わり、他部局や市町村及び多様な主体と一層の連携を図り、情報共有できる体制の強化。  
 ○市町村の取り組みを支援するため、過疎市町村がソフト事業に活用できる、過疎債（ソフト事業分）の枠の確保・拡充が課題。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

新たな定住対策や産業振興策、地域を担う人材育成など地域課題解決に向けた先鋭的・モデル的な取り組みや試行を施策立案するため、地域の実情を今まで以上に的確に把握する必要がある。そのためには、しまね暮らし推進課、隠岐支庁県民局、西部県民センターが他部局や市町村との意見交換、情報共有を定期的に行い、また、その情報を基に、普段関わりの薄い地域や各種団体にも積極的に足を運んだうえで、地域の課題やニーズを様々な角度から洗い出し、共有し、優良モデル事業等の新たな施策を創出していく。特に過疎地域においては、市町村の取り組みの財源的な支援のため、過疎債（ソフト事業分）枠の確保・拡充を要請していく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価（任意記載）